

# 喫煙に関するアンケート結果

## 喫煙率の高い業態に対する喫煙対策モデル実施

## ～関係団体、自治体と連携した事業所紹介～

## 【事業の概要】

喫煙率の高い業態に対し、関係団体（トラック協会）及び自治体（青森市）と連携して事業所及び被保険者への介入を行う。

事業所に対しては受動喫煙対策や介入のはしごを含めた情報を、被保険者に対しては禁煙のメリットや禁煙外来を含めた情報を半年間にわたって定期的に提供する。更に、希望者については、青森市が実施する禁煙支援事業（SNS等での情報発信や禁煙講座、個別相談等）へ連携する。

➤ 事業対象者

青森市内の道路貨物運送業の事業所及び被保険者

➤ 事業スキーム

前段として、トラック協会の会報誌に本事業についての記事掲載を依頼する。

対象事業所に対して協力依頼文書・アンケートを送付後、被保険者（非喫煙者を含む）に対する協力依頼文書・アンケートの配付を依頼する。

希望者については青森市の禁煙支援事業へ連携するとともに、事業所及び被保険者に対し、月に1回のペースで半年間にわたって情報提供を実施する。

なお、事業所には掲示用ポスターを提供するとともに、継続して提供する情報の掲示場所を固定する目的で掲示板（コルクボード）を提供する。

➤ 実施スケジュール

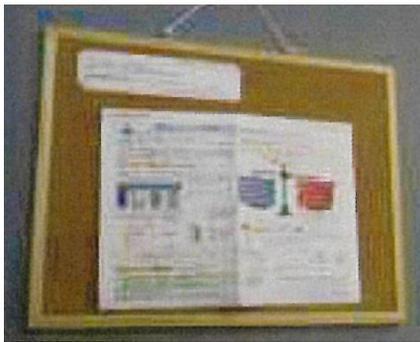
月	A 運輸業（6回支援）…54事業所	B その他（1回支援）…59事業所
4～5月	青森県トラック協会の会報誌にて情報提供	
7月	事業への協力依頼、事前アンケート配布、掲示用掲示板の配布（事業所訪問）、情報提供（支援①）	事業への協力依頼文書、事前アンケート、情報提供（支援①）の発送
8～12月	月1回、定期的な情報提供（支援②～⑥）	
2月	希望事業所に対する青森市による更なる対策支援の実施	
2～3月	事後アンケートの実施、回収、集計、結果のまとめ	

➤ 連携する関係団体

青森県トラック協会、青森市

# 情報提供物の掲示状況

A運輸業の事業所については6か月間にわたり、喫煙に関する情報提供(ポスター・チラシ)をさせていただきました。



# 青森市(保健所)による支援の様子

3事業所から更なる健康づくり・禁煙支援についての申し込みがあり、「立ち上がりテスト、握力測定、血管年齢、呼気一酸化炭素濃度測定等」を実施しました。





# 喫煙対策に関する事業所アンケート結果について

## ～事業所アンケート～

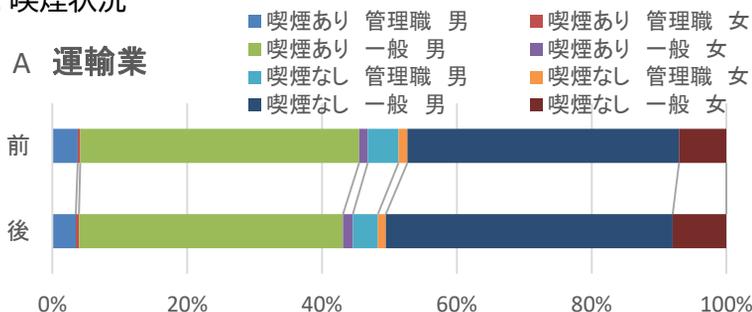
運輸業、その他の業種を合わせて113事業所へ依頼し、事前アンケートは、75事業所から回答（回答率は67%）、事後アンケートは、45事業所から回答（回答率は45%）をいただきました。

従業員アンケートは、事前アンケートが2,834名、事後アンケートは2,178名の方から提出いただき、多くの事業所、従業員の方からご協力いただきました。集計結果は次のとおりです。

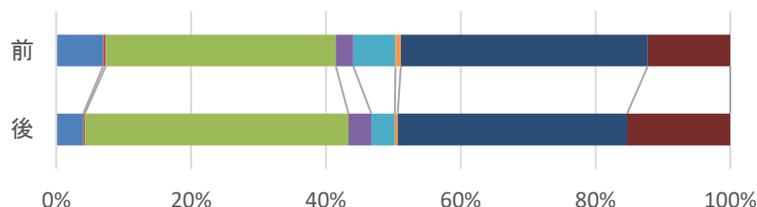
（\*事前・事後アンケートの提出事業所や対象者は一致していません）

### 1. 喫煙状況

#### A 運輸業



#### B その他



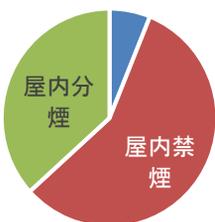
青森市を所在地としている事業所を対象に業態別に喫煙率をみると、1位道路貨物運輸業51.8%、2位建設業48.2%となっております。今回は、青森市に本社を持つ青森県トラック協会に加入している事業所に協力していただき、運輸業とそれ以外の業態に分けて集計いたしました。協力いただいた事業所の性別・職種階層別喫煙状況は、図のとおりです。

A運輸業に対しては6回、Bその他に対しては1回の情報提供をいたしました。回答いただいたアンケートでは、6回情報提供をしたA運輸業の喫煙率が47%→45%(-2ポイント)に改善されてきました。

### 2. 職場の喫煙環境

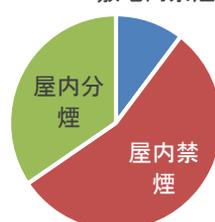
#### A 運輸業

敷地内禁煙



#### B その他

敷地内禁煙



■ 敷地内禁煙 ■ 屋内禁煙 ■ 屋内分煙

職場の喫煙環境では、敷地内禁煙に取り組んでいる事業所が全体の8%でした。

敷地内禁煙に取り組んでいる事業所は、A運輸業が6%、Bその他が10%で運輸業が4ポイント下回りました。

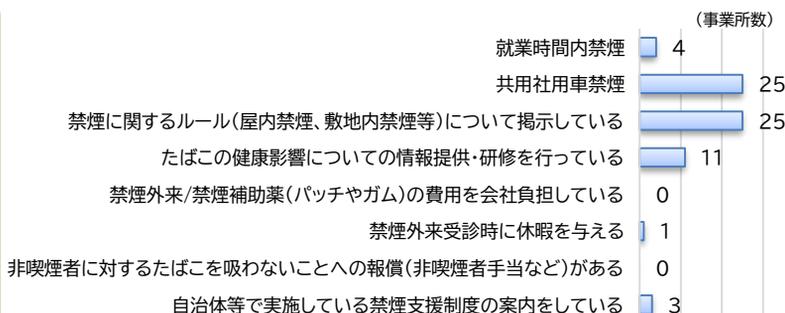
事業前後の職場の喫煙環境については、A,Bとも大きな変化はありませんでした。

### 3. 喫煙対策実施状況

事業所で取り組んでいる喫煙対策としては、「共用社用車の禁煙」、「禁煙に関するルール」の掲示に取り組んでいる事業所が多く見られました。

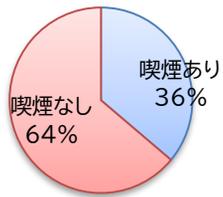
全体の5%ではありますが、「就業時間内禁煙」に取り組んでいる事業所が4事業所ありました。その他、「禁煙外来受診時の休暇」「禁煙支援制度の案内」など、工夫して取り組んでいるようでした。

事業前後の職場の喫煙対策については、A,Bとも大きな変化はありませんでした。

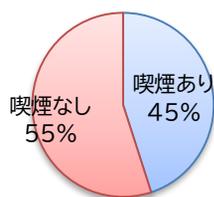


#### 4. 喫煙環境状況別喫煙率(介入前)

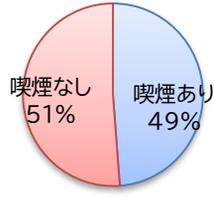
敷地内禁煙



屋内禁煙



屋内分煙

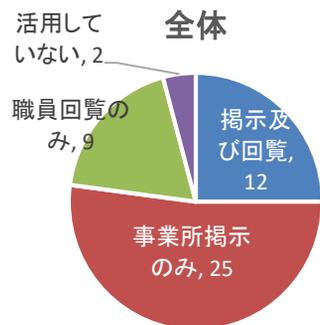


環境別喫煙率を集計してみました。

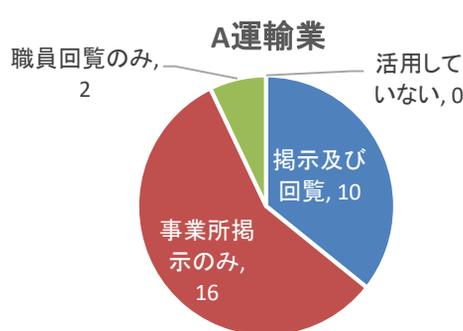
予想通り、敷地内禁煙の体制をとっている事業所の喫煙率は、36%と低い傾向が見られました。たばこを吸いにくい環境をきっかけとして禁煙にチャレンジする方もおられるのでしょうか。

#### 5. 喫煙情報提供物の掲示、回覧状況

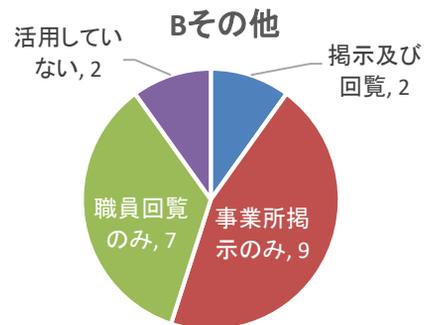
全体



A運輸業



Bその他

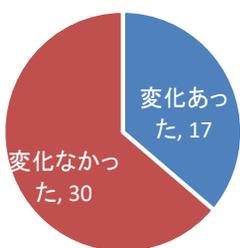


■ 掲示及び回覧 ■ 事業所掲示のみ ■ 職員回覧のみ ■ 活用していない

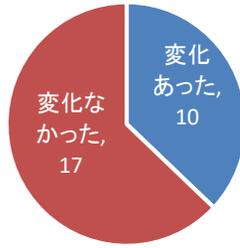
喫煙情報提供物は、比較的多くの事業所に掲示、回覧していただきました。特に、A運輸業については、ポスター掲示用コルクボードの配布および事業への協力依頼訪問の効果か、「掲示及び回覧」「掲示のみ」の合計が、Bその他を大きく上回りました。

#### 6. 喫煙情報提供後の職場の変化

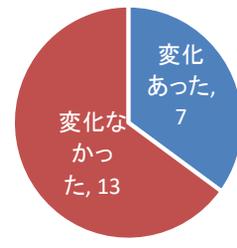
全体



A運輸業

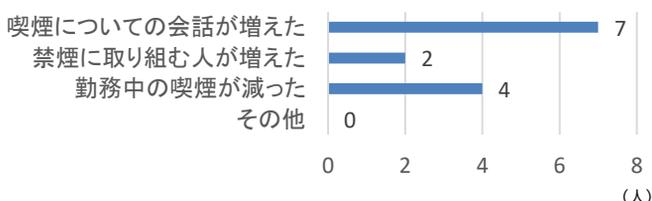


Bその他

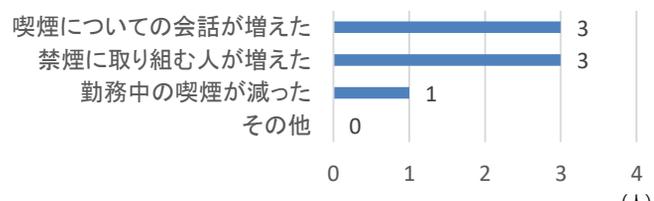


■ 変化あった ■ 変化なかった

Aの変化



Bの変化



喫煙情報提供後の職場の変化については、少数ではありますが「喫煙についての会話が増えた」「勤務中の喫煙が減った」等がありましたが、A、Bとも大きな変化、差はみられませんでした。

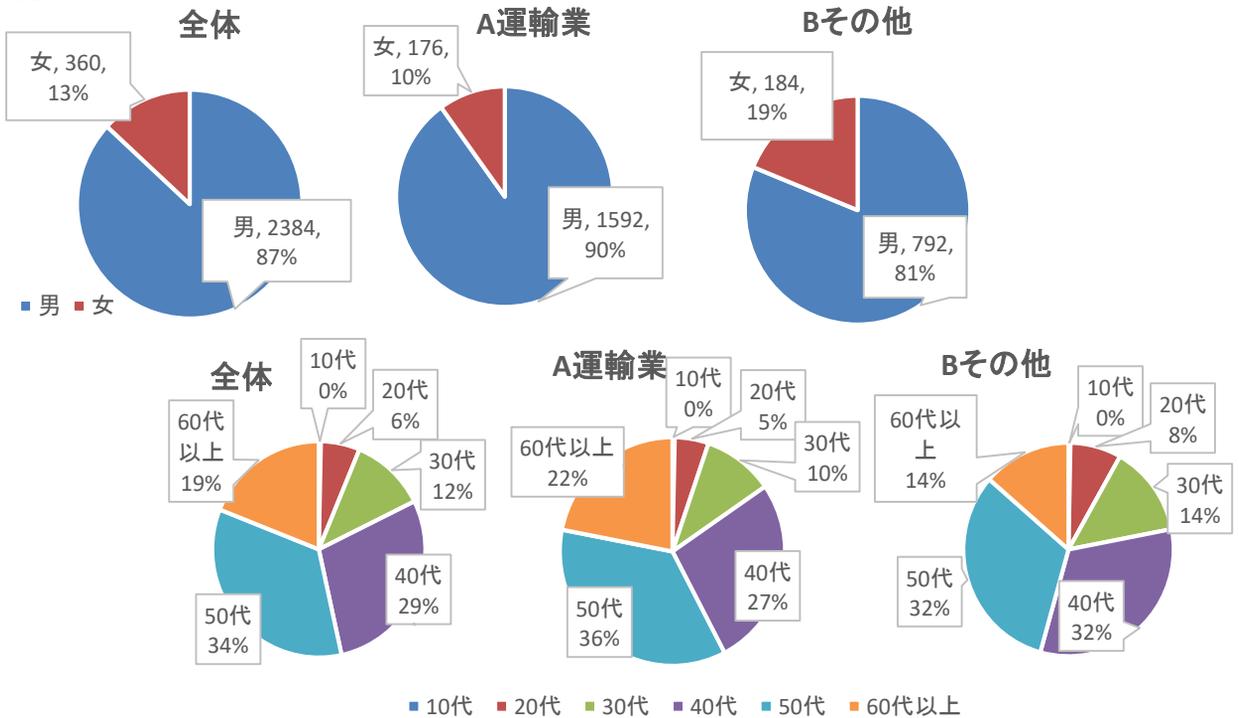


# 喫煙対策に関する事業所アンケート結果について

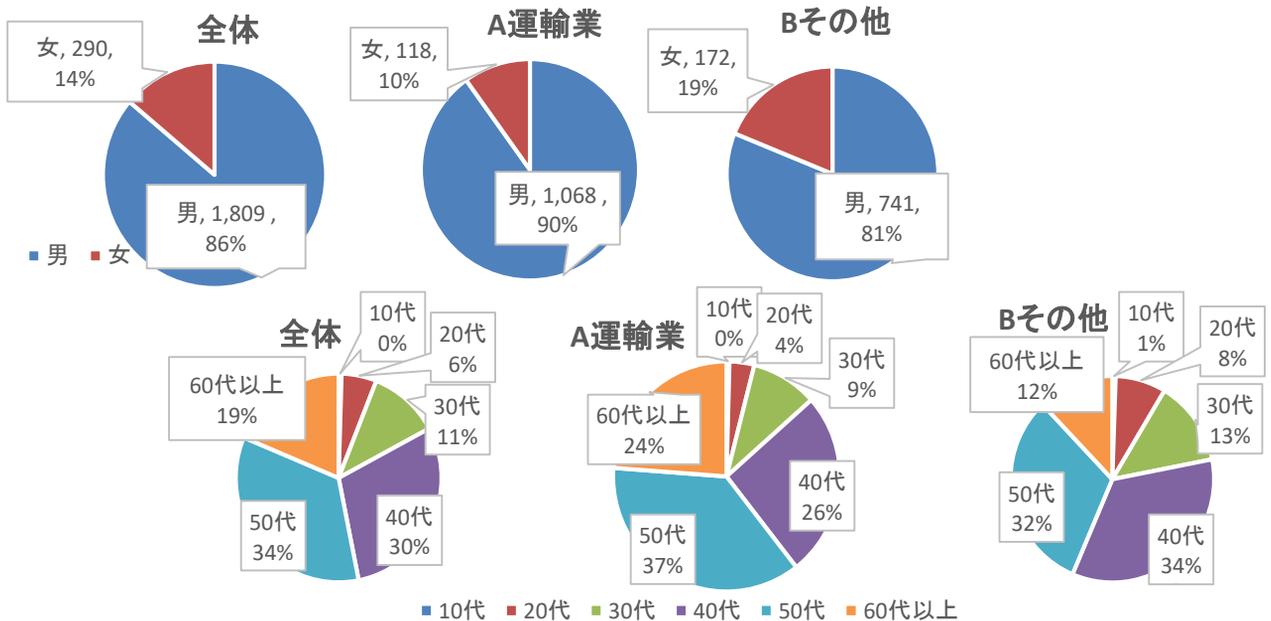
～従業員アンケート～

## 1. 属性

(事前アンケート)



(事後アンケート)

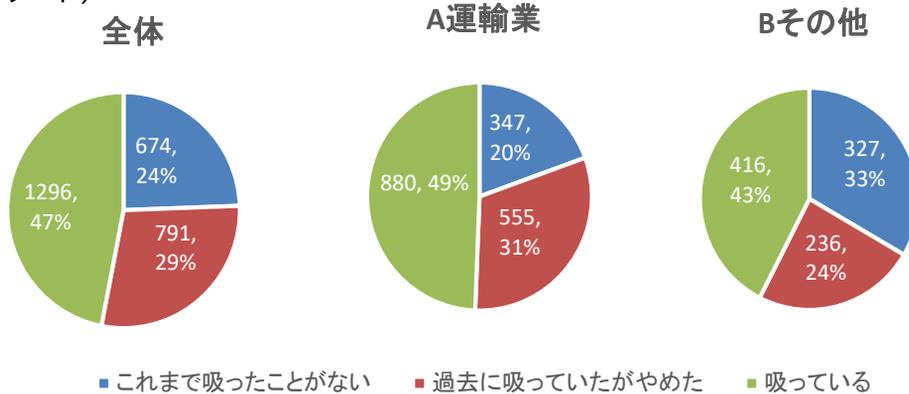


アンケートにご協力いただいたA運輸業、Bその他の業種の属性は、図のとおりです。A運輸業は、男性が占める割合や高齢者が占める割合が多くみられました。

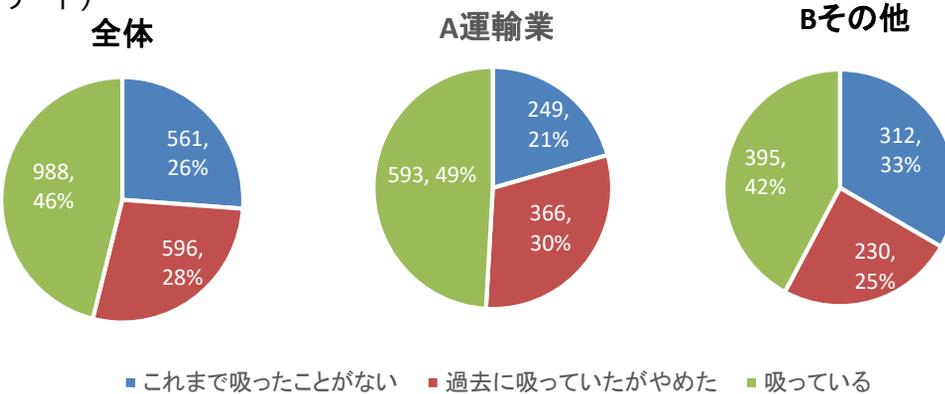
年代別構成をみると、40歳以上の従業員の割合がA運輸業は85%、Bその他の業種は78%であり、A運輸業については60歳以上の割合が22%と高い状況にありました。また、50歳以上の従業員の割合は、約6割あり過半数を超えておりました。A運輸業についてはドライバーを含めた高齢男性の健康づくりの重要性を感じました。

## 2. 喫煙の状況

(事前アンケート)

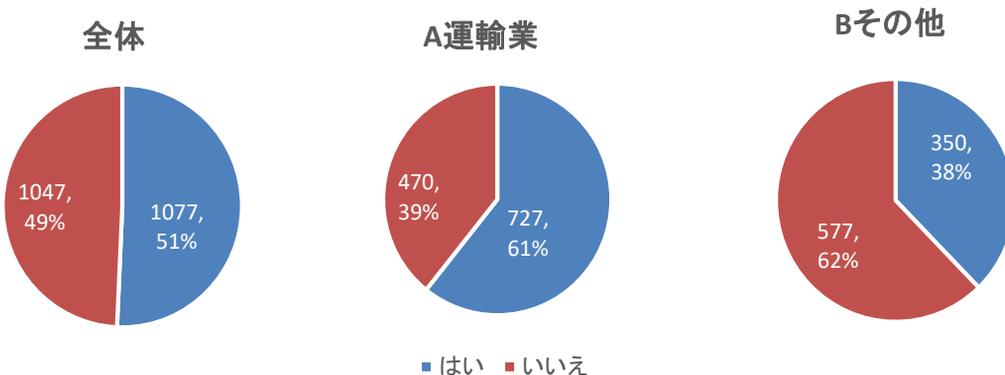


(事後アンケート)



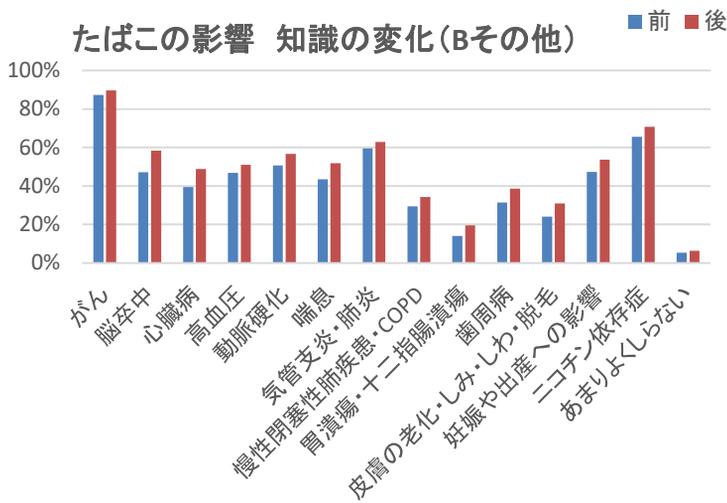
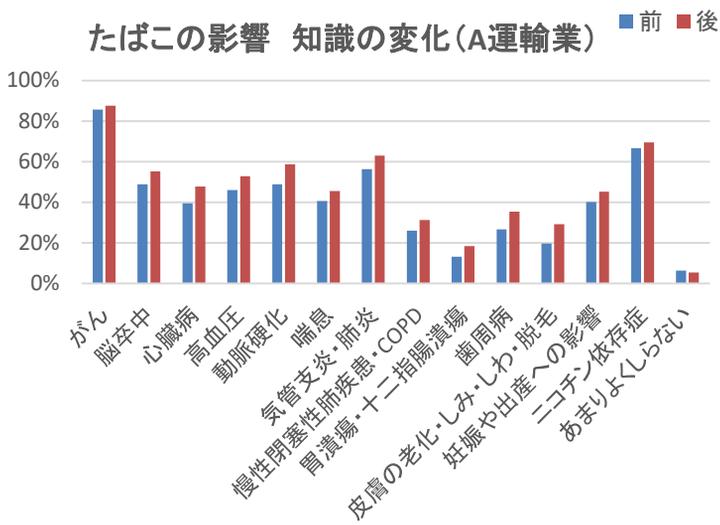
「たばこを吸っている」と回答した方は、A運輸業の方が多く、約5割の喫煙率でした。A,Bを比較すると、A運輸業の方が「過去に吸っていたがやめた」と回答した方が多くみられました。A,Bとも事前、事後アンケートでの変化はみられませんでした。

## 3. ポスター・チラシを見たか



全体では、掲示物を見た方、見ない方の比率はほぼ同じでした。A運輸業については、ポスター掲示用コルクボードの配布、6回の情報提供の効果か、掲示された事業所も多く、「はい」と回答された方が多くみられ、Bその他を23ポイント上回りました。

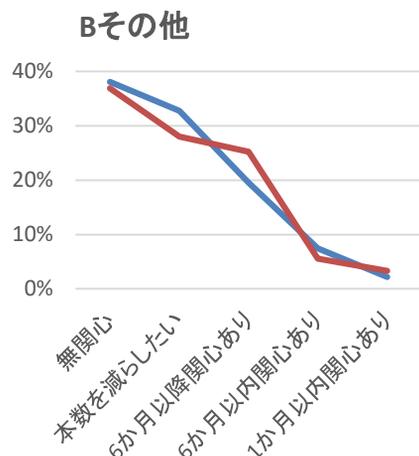
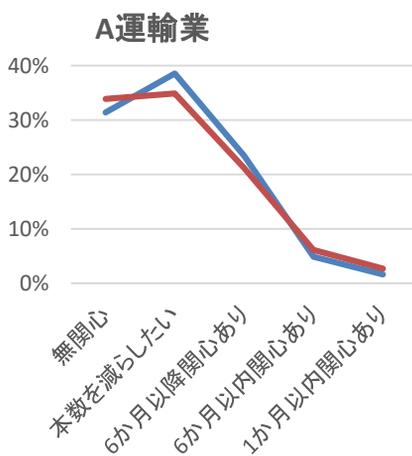
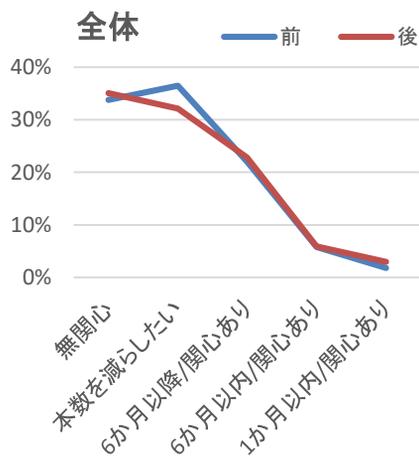
#### 4. たばこの影響 知識の変化



たばこの影響について、多くの方に知られているのはA運輸業、Bその他とも、1位「がん」、2位「ニコチン依存症」、3位「気管支炎・肺炎」でした。「がん」、「ニコチン依存症」「気管支炎・肺炎」以外の項目については、60%を下回りました。中でも、胃潰瘍・十二指腸潰瘍の知名度は20%以下、慢性閉そく性肺疾患・COPDの知名度は、20~30%程度で低い状況にありました。

A運輸業、Bその他とも情報提供前後の知識について、若干の改善はみられましたが大きな変化はみられませんでした。A運輸業については、6回の情報提供により、がん・動脈硬化・COPD等の情報提供内容に応じた項目の改善について期待しましたが大きな変化はみられませんでした。

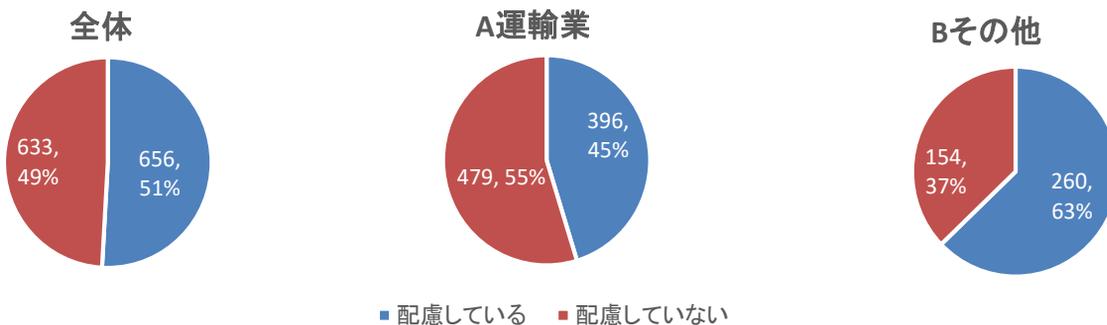
#### 5. 喫煙ステージ



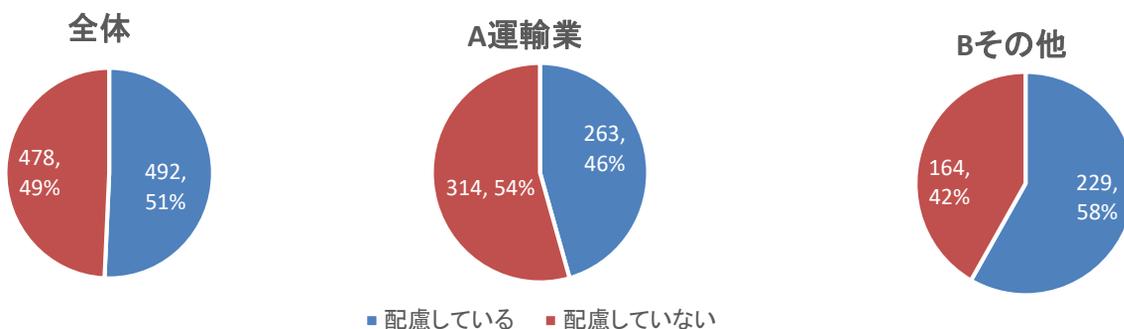
喫煙に対するステージは、「1か月以内/関心あり」と回答した方がA運輸業、Bその他ともそれぞれ4名増えました。「1か月以内/関心あり」と「6か月以内/関心あり」の合計でみると、A運輸業については、事前7% (48名) → 事後9% (52名)、Bその他については、事前9% (40名) → 9% (35名) となっており、A運輸業の方がステージが改善している割合が高いという結果が得られました。

## 6. 喫煙者の配慮

(事前アンケート)

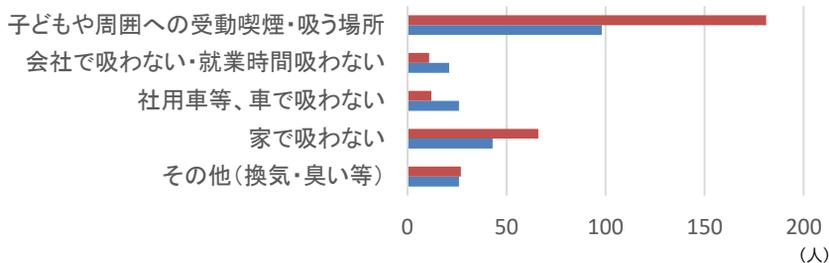


(事後アンケート)



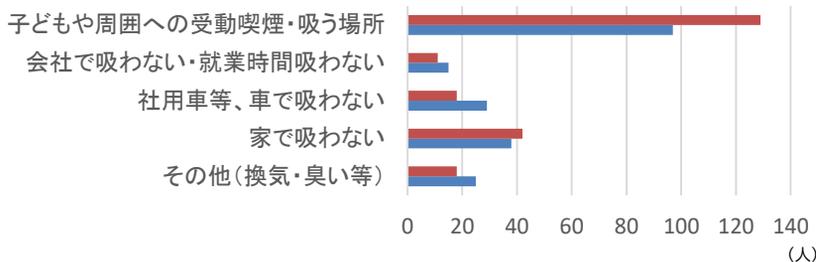
### 喫煙者の配慮(前)

■ A ■ B



### 喫煙者の配慮(後)

■ A ■ B

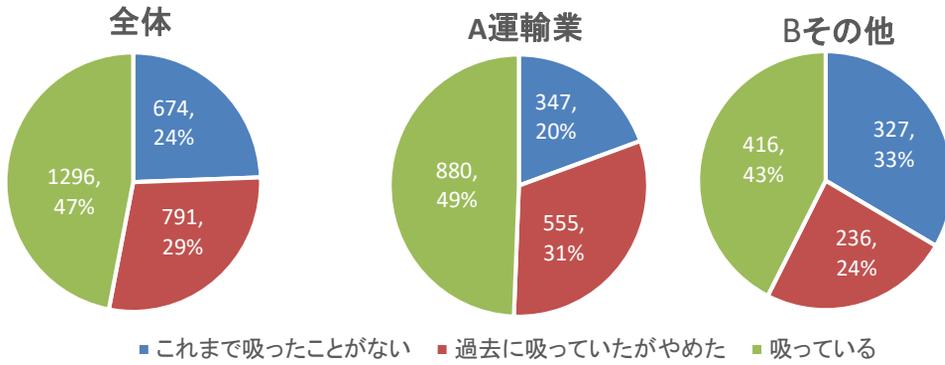


喫煙者の配慮については、全体で見ると、約半数の方が配慮していると回答していました。A運輸業とBその他を比較すると、敷地内禁煙率が高いBその他の業種のほうが配慮している方が多い傾向にありました。

配慮の内容については、「子どもや周囲への受動喫煙・吸う場所」に関する配慮が最も多く、2位は「家で吸わない」、3位「社用車等・車で吸わない」、4位「会社で吸わない・就業時間吸わない」という結果でした。全体的にみると、配慮していると回答した方は、吸いたい気持ちをコントロールできている印象がありました。

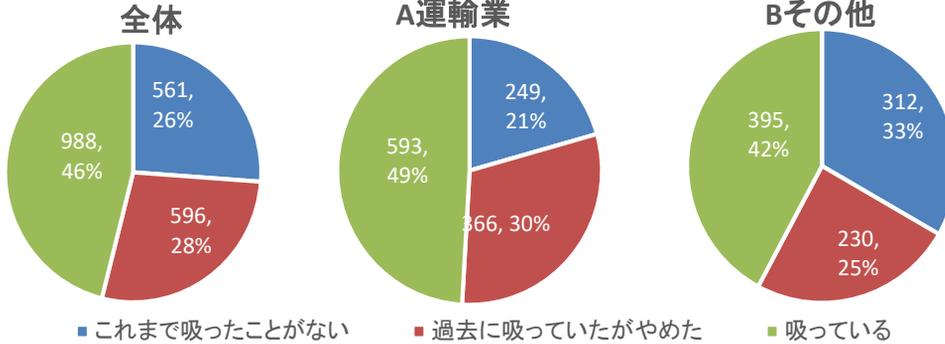
## 7. 喫煙状況

(事前アンケート)



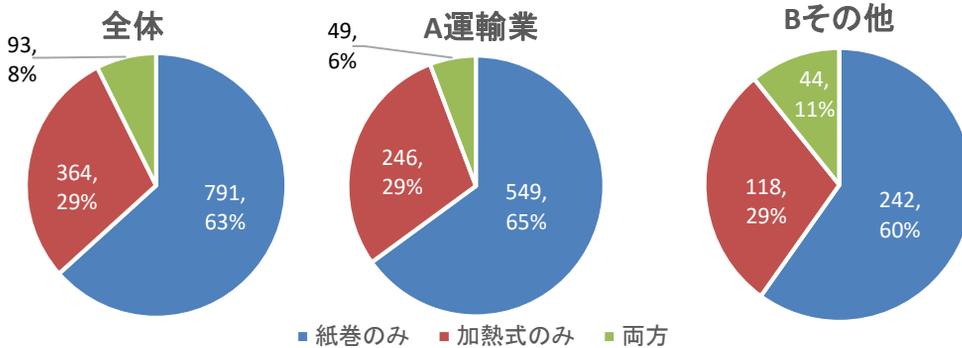
A運輸業に従事する事業所の喫煙率は、Bその他と比較すると高めの傾向にありましたが、禁煙し非喫煙者となった方も多くみられました。全体的にみるとこの6か月間で大きな変化はみられませんが、禁煙された方は、A運輸業は5名、Bその他は8名おられました。

(事後アンケート)



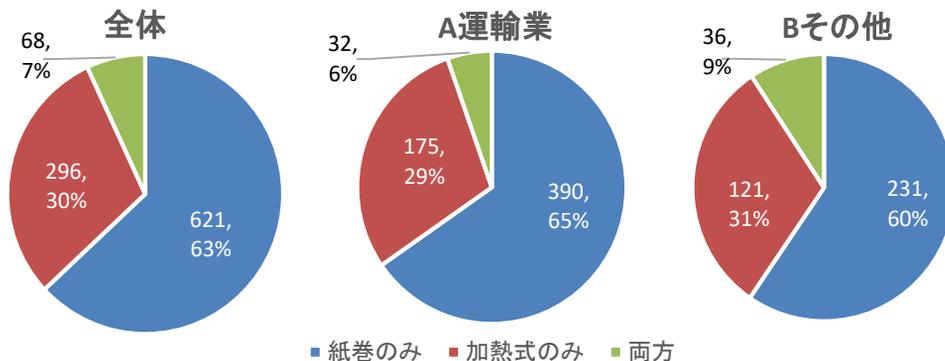
## 8. たばこの種類

(事前アンケート)



たばこの種類は紙たばこが60%以上で最も多く、A運輸業の方がやや多い傾向にありました。次いで加熱式たばこを吸っている方が約30%みられ、両方を吸っている方は、全体で見ると約7~8%でした。両方併用者は、A運輸業よりもBその他の方が多くみられました。

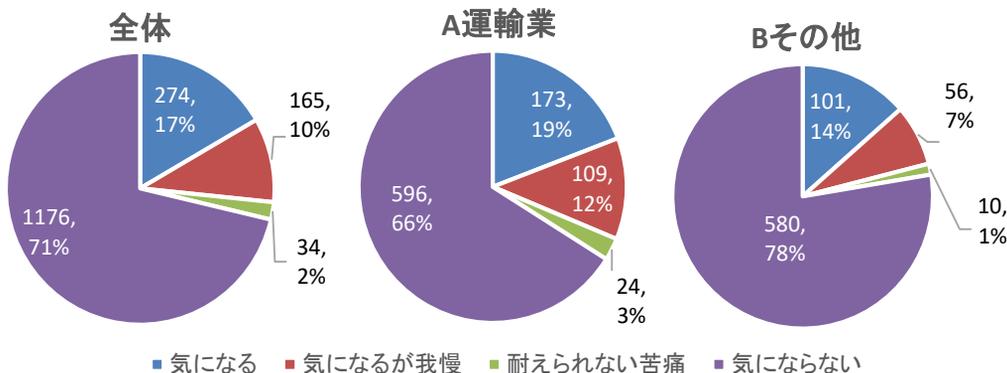
(事後アンケート)



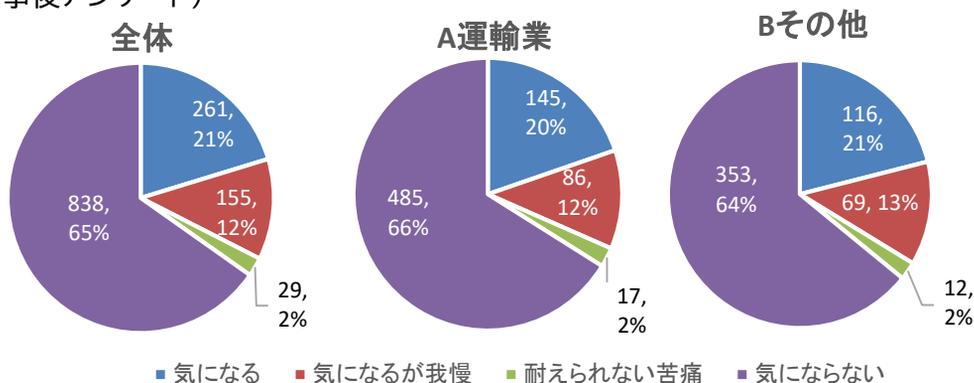
加熱式たばこを吸っている方が非常に多い事業所がいくつかあり、中には、加熱式たばこ販売事業者による販売勧奨効果で流行したと思われる事業所がありました。たばこの種類についてこの6か月間で大きな変化はみられませんでした。

## 9. 受動喫煙状況～たばこの煙に対する思い～(非喫煙者のみ)

(事前アンケート)



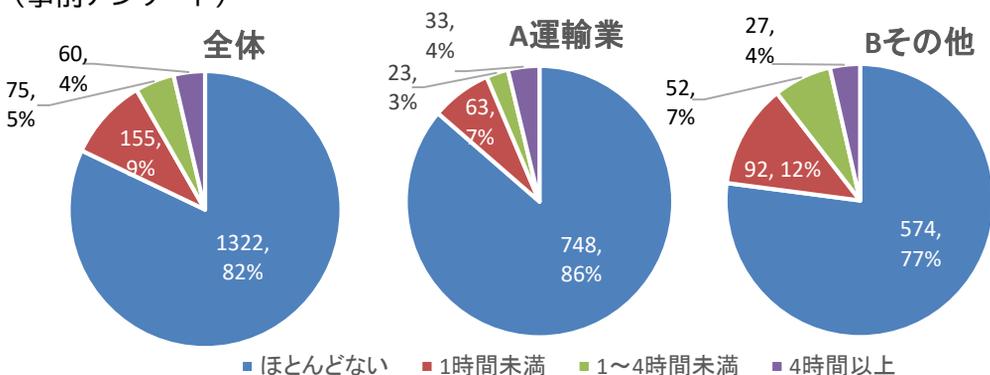
(事後アンケート)



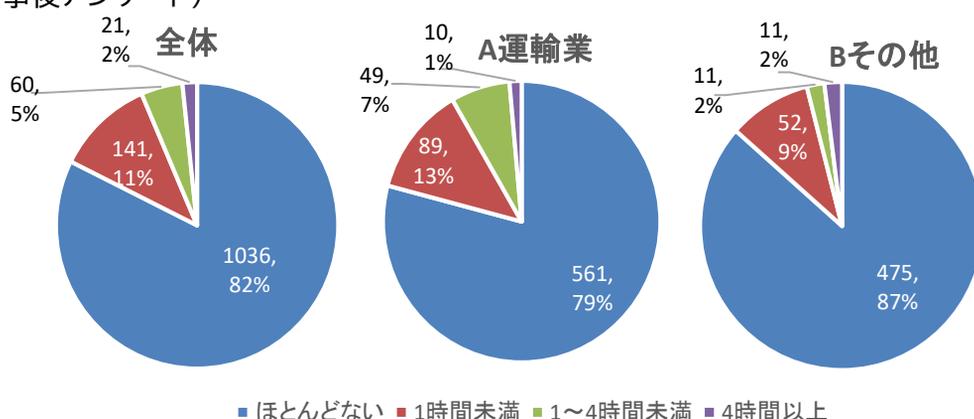
たばこ臭については約7割の方は「気にならない」と回答していますが残り3割の方は「気になる」「我慢している」「耐えられない程の苦痛」と回答しており、不快に思っている方が一定数みられます。たばこの煙に対する不満は、社用車からのたばこ臭と喫煙直後の呼気（エレベーター）等が原因となっている可能性が高いようでした。法律に則った喫煙ルールへの順守が重要であると感じました。

## 10. 受動喫煙状況～勤務時間中のたばこの煙が漂う室内にいる時間～(非喫煙者のみ)

(事前アンケート)



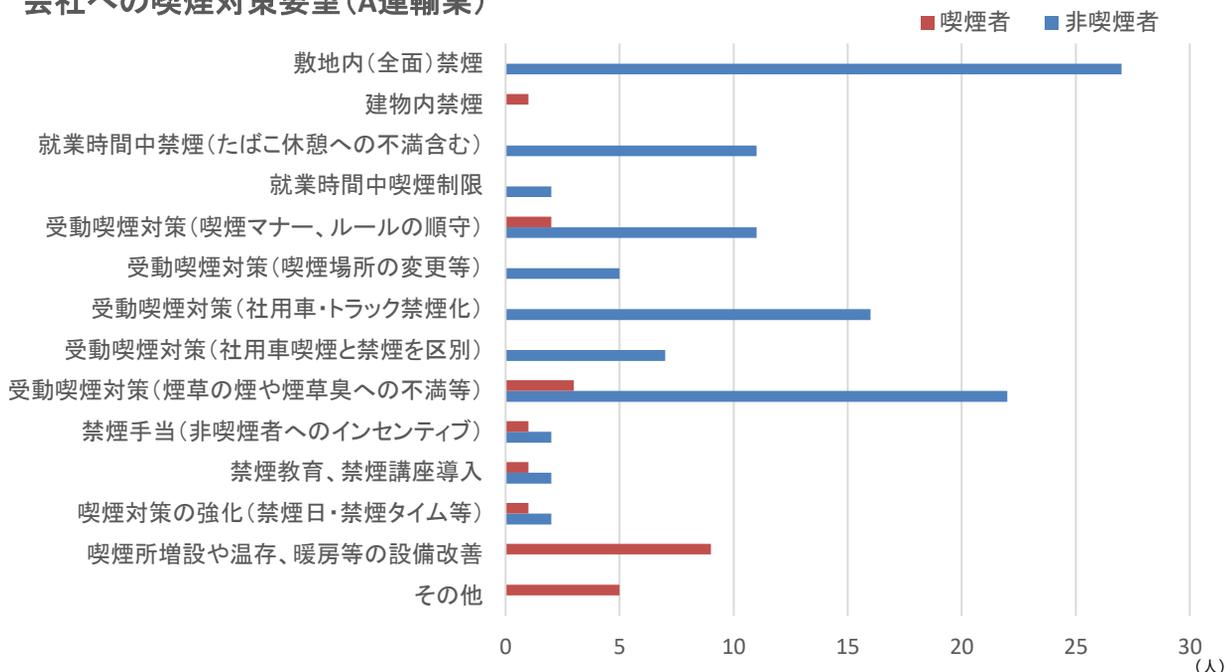
(事後アンケート)



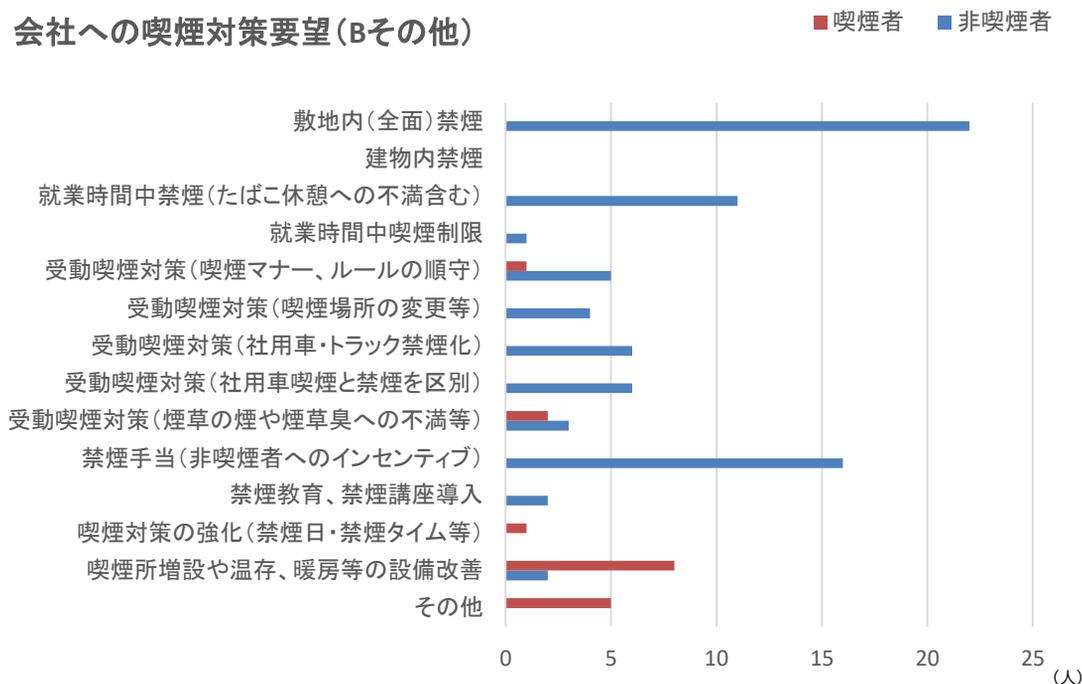
受動喫煙状況「勤務時間中のたばこの煙が漂う室内にいる時間」については、約8割の方は「ほとんどない」と回答されておりました。一方、建物内禁煙等に取り組んでいる事業所が多いものの、喫煙場所等からの煙に対する不満をお持ちの方が一定数おられました。A運輸業においては、社用車・トラックにおける不満の声があり、受動喫煙問題が浮き彫りになりました。事後アンケートで「4時間以上」と回答した方は減少していますが、法律に則った環境整備やルールの順守の必要性を感じました。

## 11. 喫煙対策に関する会社への要望

### 会社への喫煙対策要望(A運輸業)



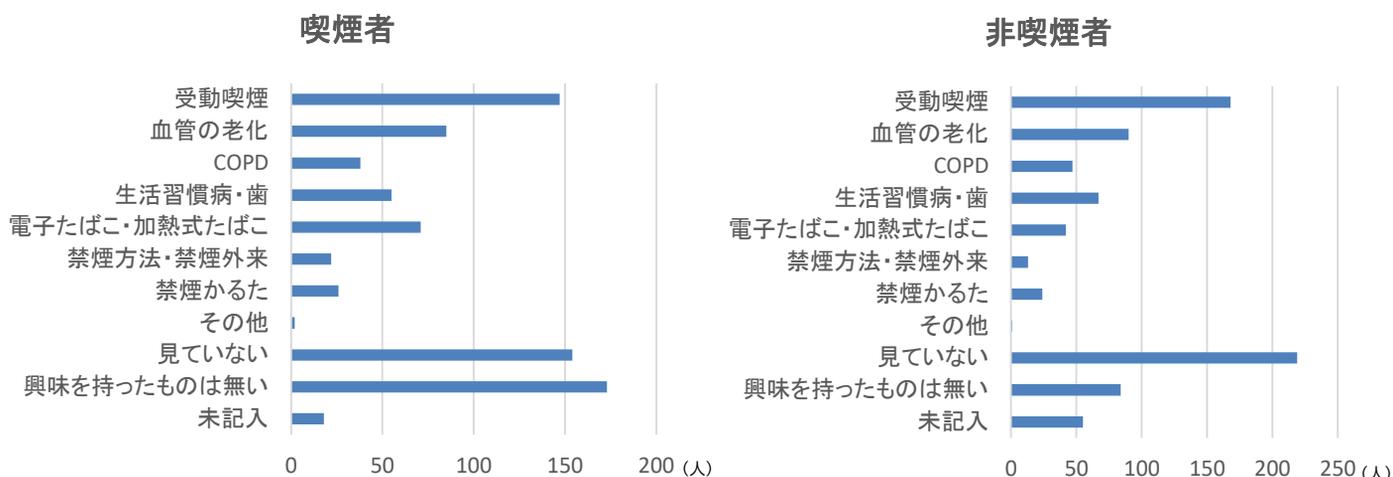
### 会社への喫煙対策要望(Bその他)



従業員が会社に希望する喫煙対策は、非喫煙者からの要望が圧倒的に多くみられました。敷地内禁煙への希望が最も多く、次いで受動喫煙に関する項目(煙、たばこ臭、社用車・トラックの禁煙化等)への要望が多くみられました。就業時間中の喫煙については時間や場所など喫煙マナーやルールの順守に対する不満が多く寄せられました。

喫煙者からは、喫煙所の増設や温存、暖房等の喫煙所設備の改善への要望が多くみられましたが、受動喫煙対策(喫煙マナー・ルールの順守、たばこの煙やたばこ臭への不満等)に対する要望もみられました。喫煙者・非喫煙者、両者にとって納得が得られる対策が求められます。

## 12. 情報提供物への興味(A運輸業のみ)



情報提供物は、事業所内で掲示、回覧したと回答があった事業所が多いものの、全体的にみると「見ていない」「興味を持ったものは無い」と回答された従業員が多くおりました。トラック協会に加盟する会社ということもあり、運転に従事する従業員も多く、会社内での掲示だけでは、一部の従業員にしか情報が行き渡らない実態が浮き彫りになりました。

提供した喫煙情報への興味については、1位は、喫煙者・非喫煙者とも「受動喫煙」、2位は、「血管の老化」でした。3位は、喫煙者については、「電子たばこ・加熱式たばこ」で、事業所訪問時に担当者からも「電子たばこの内容は、みんな一生懸命見ていた」という感想が聞かれました。

## 13. まとめ

今回、青森県トラック協会及び青森市と連携のもと、喫煙対策パイロット事業を実施いたしましたが、前後のアンケート結果からは、6か月間（月1回）の情報提供による明らかな喫煙に対する知識や行動の変化はみられませんでした。しかし、禁煙に対するステージは、A運輸業に変化がみられ、「1か月以内/関心あり」と「6か月以内/関心あり」の合計で見ると、改善している割合が高いという結果が得られました。6か月間の情報提供では、知識や行動変化までは至らなくとも、禁煙ステージ改善の可能性が示唆されました。

また、事業を通じ、運輸業における喫煙に関する実態や課題について把握できたことは、今後の運輸業への喫煙対策実施にあたり、参考になることが多く得られました。

運輸業の実態としては、「情報提供物を事業所内で掲示、回覧した」と回答があった事業所が多いものの、全体的にみると「見ていない」「興味を持ったものは無い」と回答された従業員が多くおりました。トラック協会に加盟する会社ということもあり、運転に従事する従業員も多く、会社内での掲示だけでは、一部の従業員にしか情報が届いていないという結果でした。また、属性については、高齢男性の従業員の占める割合が高く、年齢・性別を考慮した健康づくり対策の重要性を感じました。

課題としては、①建物内の喫煙対策はとられているものの社用車・トラック等における受動喫煙対策に取り組んでいる事業所が少ないこと②従業員の年齢層が高く、SNSによる普及が期待できない、喫煙習慣が固定化されていること③運転業務等の外勤者が多く、掲示物や周知チラシ等での情報提供が難しいことが浮き彫りとなりました。

受動喫煙対策という観点でみると、喫煙場所や社用車・トラック等における非喫煙者からの不満が課題であり、運転業に従事する従業員にとっては勤務時間の多くを車内で過ごすことが多く、早急な対応の必要性を感じました。事業所の受動喫煙対策には差があること等から、今後も青森県トラック協会（業態関連団体）や青森市（自治体）と連携し、事業所の喫煙に対するヘルスリテラシーの向上に向けた継続した支援が今後も重要であると感じました。